令和7年度 学校経営報告（学校評価報告書）

四條畷市立四條畷中学校

校 長　河上 弘子

1 学校経営方針

●学校教育目標

《心を磨く》強い意志と豊かな心を持ったたくましい生徒の育成

《人に学ぶ》自ら学ぶ意欲と考える力を持った生徒の育成

●育てたい生徒像

しなやかに、たくましく生きる生徒の育成

●令和7年度重点目標

「 みんな大事 ～『あたりまえ』にいいね！～ 」

☆学校は安全・安心な場所

①学校に来ると楽しい

②クラスに自分の居場所がある

③安心して人と話すことができる

④授業が「わかる」、がんばると「できる」と感じる

⑤クラス・学年の取組みや学校行事クラブ活動が楽しい

⑥あたりまえの日常を大切に生活する

⑦あたりまえのことができていることを認めてもらえている

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	明日も行きたいと思える学校
★めざす子ども像	しなやかに、たくましく生きる生徒
★めざす教師像	温かい声かけ、温かいまなざしのある教師 生徒にとって一番身近なロールモデル

3 学校の現状（よさと課題）

（1）子どもたちの実態

学校生活全般において素直に積極的に取り組める生徒が多く、学習面でも「わかりたい」、行事に関しても「やってみたい」と前向きな思いを持っている。

しかしながら、成育過程において、保護者や周りの大人が保護したり、先回りして手助けすることもあったのか、失敗したり、そのうえでやり直してみてうまくいったという経験が少ないような気がする。人とぶつかりながらも、より良い答えを見つけたり、失敗してもやり直せるという経験をさせたりしながら、自立をめざして、自己選択・自己決定を促す必要がある。

また、自分の発言を周りがどう思っているかを気にする動きや、周りに同調して、自分の意思どおりに行動できないことがあり、人間関係が限られたものになりがちである。

あわせて、不登校傾向の生徒が一定数いる。何らかのつながりをつくることを目的として、ここ数年、教育支援ルームや個別対応の充実に注力してきた結果、朝からは登校できなかったり、教室には入れないという生徒が、教育支援ルームには登校することができたり、通級指導教室には登校することができたりしている。

個別への対応が注目されがちであるが、ほとんどの生徒がまじめに学校生活に取り組んでいる。あたりまえの学校生活を、あたりまえに送れている生徒たちをしっかりと認めながら、集団の力を育てる必要がある。

学習面は、家庭での学習習慣の定着が課題であり、生活とともに、主体的な取組みへのしかけも必要である。

（2）子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

統合により校区も広くなり、生活環境（経済的なこと含む）や家庭状況は様々である。保護者によっても考え方は多様であり、一律な、紋切り型の指導にはなじまない生徒が一定数いる。「違いがあって当然であること」「違いを認めること」また、「違いを受け入れ合い、折り合いをつけていく力」がより大切であると考える。

②地域

全体的に学校教育に関しては協力的な地域である。保護者も（時に代々）卒業生であることも珍しくない。

南中と畷中が統合したため校区が広く、それぞれの地域によって大切にしてきたものがあり、それらの交流や共有ができるとよいと考える。コミュニティスクールの取組みを通して、地域との連携を深めていきたい。

③組織（教職員、PTA、保護者）

・教職員

こどもに丁寧に寄り添い、繋がろうとしており、とても熱心に日々の指導・支援に取り組んでいる。20～50代以上の年代がバランスよくいる教員構成ではあるが、20～30代が半数以上を占めている。経験年数や本校在籍年数を鑑み、各学年の教職員構成のバランスをとっている。主任や主事、部長などは、いわゆるミドルリーダーが担っており、学校運営はスムーズに進んでいる。

・PTA、保護者

PTA はとても協力的であり、十分に情報共有・連携ができており、学校運営の大きな支えとなっている。
昨年度より、PTA 活動を「できる人が、できる時に、できることを」という活動趣旨に変更し、組織をスリム化した。
保護者は、概ね学校教育に熱心で、一定の理解を得ている。子どもから聞かれた情報等で不安に感じられたり、不明に思われたりすれば、まずは学校に連絡をくださることが多い。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
「みんな大事～『あたりまえ』にいいね！～」 ☆学校は安全・安心な場所 ①学校に来ると楽しい ②クラスに自分の居場所がある ③安心して人と話すことができる ④授業が「わかる」、がんばると「できる」と感じる ⑤クラス・学年の取組みや学校行事クラブ活動が楽しい ⑥あたりまえの日常を大切に生活する ⑦あたりまえのことができていることを認めてもらえている	学習・学校生活に関するアンケート（生徒・教職員）での肯定的回答 A：学校に来ることは楽しいですか B：クラスや学年のつながりが広がりましたか C：自分の良いところや友達の良いところを見つけられますか D:みんなのために進んで自分の役割を果たせますか E：しんどい時困った時に周囲の仲間に相談できますか F：授業中、安心して発言できていますか G：学校の授業はよくわかりますか H：行事やクラブ活動などに積極的に取り組んでいますか I:「やってみーる」「ねばーる」「つながーる」を意識しているか J：先生はあなたの良い所を認めてくれていると思いますか

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	結果	評価
①楽しい学校づくり	A：85%以上 B:85%以上	A：83.0%△ B:86.6%〇	Ⅰ、2学期のアンケートでは、質問Ａに対して、肯定的回答が 85%を上回っていたが、3 学期にダウン。ささいな人間関係のつまずきや、不安によって、「学校に行きたくない」と思ってしまうのかもしれない。
②居場所づくり	C：85%以上 D：85%以上 E:80%以上	C：93.6%◎ D：88.9%〇 E:84.3%〇	「みんな大事～あたりまえにいいネ～」を取組みの重点目標として、ことあるごとに発信してきたので、生徒のマインドセットにつながったのかもしれない。
③心理的安心感	E：80%以上 F：80%以上	E：84.3%〇 F：90.9%◎	学級集団作りに取り組んできたことが、授業中の心理的安心につながったと思う。
④「わかる」「できる」をめざした授業改善	G：85%以上	G：84.5%△	引き続き、すべての生徒が参加できる授業づくりの推進に努めたい。
⑤行事やクラブへの積極的な取組み	H：85%以上	H：88.2%〇	やはり、行事で人間関係や自主性などが育成されている。
⑥あたりまえの日常	I:75%以上	I:66.6%×	授業や行事において、「る・る・る」をもっと意識させる必要がある。
⑦承認されている感覚	C:85%以上 J:85%以上	C：93.6%◎ J:87.5%〇	教職員が、生徒の良い所に着目し、強みを伸ばそうとする意識ができてきた。

目標設定区分2『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
「みんな大事 ～『あたりまえ』にいいね！～」の実現のために教職員で心がけたいこと ①教職員間のコミュニケーション ②情報共有、役割分担を意識した組織対応 ③活発な意見交流や議論によるイメージ共有 ④肯定的な生徒理解、合理的配慮 ⑤教職員が楽しむ姿を見せるロールモデル ⑥教育公務員としての適切なふるまい	学習・学校生活に関するアンケート（教職員）における肯定的回答と会議等での意見、面談等で聞き取る意見 K：学校の状況や課題に対し全職員で組織的に取り組んでいるか L：「みんな大事」を意識して取り組めているか M：「わかる」「できる」をめざした授業改善に取り組んでいるか N：安心して学べる場を作るという活動を意識して取り入れているか O：肯定的な生徒理解で、どうすればうまくいくかという思考であるか P：主任会、学校運営委員会での意見 Q：面談等での意見

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	結果	評価
①教職員間のコミュニケーション	K：80%以上 L：85%以上 P・Q：	K：97.0%◎ L：97.0%◎ P・Q：○	生徒指導や教科指導に関して、全教職員の合意を大切にし、カバーし合いながら進めることができた。 主任会でも学年間のバラつきはあまり見られない。
②情報共有、役割分担を意識した組織対応	K：80%以上 O・P・Q：	K：97.0%◎ O・P・Q：○	事案が起こると、すぐに情報共有を行い、指導方針を共有し、役割分担しながら対応できている。 学年間でも情報共有を行い、全体で見守ることができている。
③活発な意見交流や議論によるイメージ共有	L：85%以上 O・P・Q：	L：97.0%◎ O・P・Q：○	職員会議や校内研修などにおいて、話をすることを意識した。
④肯定的な生徒理解、合理的配慮	M：90%以上 N：85%以上 O：	M：100%◎ N：100%◎ O：○	「生徒の言動を表面的なことだけで判断せずに、背景や状況をよく理解したうえで、課題解決に取り組む」ということを教職員で共通認識して取り組めた。
⑤教職員が楽しむ姿を見せるロールモデル	L：85%以上 P・Q：	L：97.0%◎ P・Q：○	学年集団や職員室は明るく、生徒の話や、自身が迷ったり困ったりしていることも話し合えている雰囲気である。
⑥教育公務員としての適切なふるまい	Q：	Q：○	職員会議等で綱紀保持については毎回話をしており、お互いで律することができる教職員集団である。

目標設定区分3『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
学校づくりに主体的に参画する人材の育成 ①主任や部長からの発案の促しと委任 ②学校⇔部・学年⇔学級という組織的な意思決定	学習・学校生活に関するアンケート（教職員）における肯定的回答と会議等での意見、面談等で聞き取る意見 K：学校の状況や課題に対し、全職員で組織的に取り組んでいるか P：主任会、学校運営委員会での意見 Q：面談等での意見

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	結果	評価
①発案の促しと委任	K：80%以上 P・Q：	K：97.0%◎ P・Q：〇	時程やクラブのあり方など、学校運営がよりよくなるための職員からの提案がなされる。
②組織的な意思決定	K：80%以上 P・Q：	K：97.0%◎ P・Q：〇	学年、分掌部、教科など、あらゆる単位での検討や議論をふまえた意思決定ができている。

目標設定区分4『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
・CS（コミュニティスクール） ①学校ニーズに応じた安定的な活動 ②地域への積極的な発信 ・小中連携 ③小中の教職員の交流、9年間を見通した取り組みの充実	学校教育に関するアンケート（保護者）の肯定的回答と、発信 R：学校は保護者地域の願いに応えている S：メールや通信によって学年の様子を知ることができる T：畷中だよりの定期的発行や各会議における発信 P：主任会、学校運営委員会での意見 Q：面談等での意見

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	結果	評価
①ニーズに応じた安定的な活動	R：80%以上 S：80%以上	R：76%× S：89%〇	マチコミメールを活用し、学校の様子を保護者に伝えている。地域への発信や地域の願いを聞き取る工夫がさらに必要である。
②地域への積極的な発信	T：年間 10 回以上	T：15 回	マチコミメールを活用し、学校の様子を保護者に伝えることができた。地域への発信に工夫が必要である。
③小中連携の充実	P・Q：	P・Q：〇	公開授業や参観などの機会に、教員が小学校へ行く機会が増えた。日々の連携をもっと充実させたい。

5 学校関係者による評価（学校運営協議会等）

・先生方どうしがつながりあっていて、とても良い。
・クラブ時間の見守り活動が定着してきて、生徒たちがあいさつするようになった。「放課後の居場所づくり・見守り」がCSの意義の一つだと感じている。
・地域の方や保護者から、地域での中学生の様子について、不安な声があった。一部の声ではあるが、学校だけでなく、地域が一緒に子どもたちの見守りに取り組むにはどうすればよいか。
・学校と保護者の関係について、ヘルプを出し合える関係が望ましく、めざしてほしい。

6 総合評価と次年度に向けて

不登校や集団に入りにくい傾向のある生徒などへの多様な支援が本校の特徴的な取組みの1つである。

この間、不登校および傾向のある生徒が、誰にも、どこにもつながっていない状態や、教室での人間関係がしんどくなった生徒にとって、「学校を休む」という選択肢しかないという状況にしたくなくて、校内支援ルームや別室対応という個別支援に注力してきた。1年生の中には、人間関係の構築が不安定な1・2学期に教育支援ルームを活用しながら心身を整え、3学期はほとんど学級で生活できている生徒もいる。

全体の成果としては、2 学期末ぐらいまでは、新規不登校の抑制ができた。しかし、3学期あたりから、休みがちになる、休みが多くなる生徒も出てきた。このことについては、「本来は不登校になってもおかしくない生徒が、1・2学期は個別支援や安全・安心な場所が確保されていたから、非常にがんばることができたのはないか」と分析している。

一方、集団の力にも改めて着目し、「あたりまえのことをあたりまえにやっている生徒に対して、そのがんばりを承認していく」という教職員のマインドセットを行った。「学校の状況や課題に対し、全職員で組織的に取り組んでいるか」というアンケート項目に対して、教職員の肯定的回答は 97.0%であり、共通認識のもと教育活動に取り組めたと評価している。

また、問題行動を起こす生徒に対して、表面上の言動だけにとらわれずに、その言動に至る背景や特性など、丁寧な生徒理解のもと、まずは受け入れながら成長を促していこうという認識が、教職員の中で浸透してきた。今年度、「先生はあなたの良い所を認めてくれていると思いますか」というアンケート項目に対して、87.5%の生徒が肯定的な回答をしており、一定の成果が見られる。

これらの教育理念や指導観は、ここ数年で教職員に浸透してきたように思う。今後、異動等で、薄れたり、バラつきが出たりしないよう、引き続き、共通認識に努めたい。

あわせて、生徒たちには、あたりまえの生活を大切にし、認めあえる集団になってほしく、また、中学校3年間でそのような経験をたくさんしてほしいと願っている。そのための取組みをしっかり実践していきたい。

加えて、このような「畷中文化」を、保護者、地域の方々にも発信し、理解いただくことに努めたい。